

特別活動と関連を図った総合的な学習の時間のカリキュラムづくりに関する研究

- 課題づくりの場として野外活動を関連させることを通して -

広島市立矢野中学校教諭 下 森 英

問題の所在

本校でも平成14年度の新学習指導要領実施に向けて総合的な学習の時間の取り組みを始めている。

1年生の総合的な学習の時間は、「環境」をテーマに行っているが、学習の当初に実施した施設見学等の体験活動が、生徒のその後の学習活動にうまく結びつかなかったところがあり、総合的な学習の時間の中で体験活動をどう位置づけるかが課題として残った。

また一方で、各教科等の授業時数を適正に確保するために、学校行事等の内容の重点化や精選を行うことが教育課程を編成していく上において必要となっている。

この、総合的な学習の時間における体験活動の充実と学校行事等の精選という視点から、特別活動と総合的な学習の時間の関連を図ることの必要性を感じているが、そのためには両者の特質を把握した上で、それぞれの領域を明確に整理しておくことが必要である。

そこで、特別活動と総合的な学習の時間の関係を明らかにしながら、両者を関連させる際の視点と方法を整理し、特別活動と関連を図った総合的な学習の時間のカリキュラムをつくりたいと考えた。

研究の方法

特別活動と総合的な学習の時間における生徒の体験の分析と、文献による理論研究をもとに、特別活動と総合的な学習の時間を関連させる際の視点と方法を整理し、特別活動と関連を図った総合的な学習の時間のカリキュラムの試案を作成する。

研究の内容

1 特別活動と総合的な学習の時間の分析

特別活動と総合的な学習の時間の関係を明らかにするために、まず、広島市立A中学校第1学年の2学期に行う総合的な学習の時間に焦点を当て、その学習活動の中で生徒は何を感じ、何を考え、その時間の体験活動が生徒にとってどのような意味をもっているのかを探ることにした。

(1) 総合的な学習の時間の授業観察

広島市立A中学校第1学年B組36名を対象に、平成13年10月から平成14年1月まで、5回にわたって総合的な学習の時間の授業観察を行った(図1)。

| 第1学年 | 総合的な学習の時間「環境」 | | | | | | 学習の流れ | 計 |
|------|---------------|-----|------|------------|------|----------------|-------|-----|
| | 基礎学習 | 講演会 | 施設見学 | テーマ決め | しらべる | まとめる | 発表する | |
| 学習時間 | 3h | 1h | 6h | 1h | 6h | 4h | 2h | 23h |
| 授業観察 | | | | 1回目 事例1 | 2回目 | 3,4回目 事例2,3 | 5回目 | |

図1 総合的な学習の時間の学習の流れと授業観察の状況

以下は、その授業観察の事例と考察をまとめたものである(図2)。

| | |
|-----|--|
| 事例1 | テーマ決めの際に、それまでの基礎学習や施設見学等でふれたゴミ問題よりも、地球温暖化やオゾン層などに関するテーマを選ぶ生徒が多かった。生徒に施設見学の状況やテーマ設定の理由を聞いたところ、「施設見学は人数が多すぎて30分くらいしか見ることができなかった」「施設見学は研究テーマの決定にはあまり関係していない」などの回答が多かった。 |
| 考察1 | 体験的な活動として西部リサイクルプラザと大型ゴミ破砕処理場の2グループに分かれて施設見学を実施したが、生徒への聞き取りによると、施設見学がテーマ設定に結びついていないことがうかがえた。その要因としては、施設の規模に対して生徒の人数が多すぎて十分な体験ができていなかったことと、事前の取り組みが十分ではなかったため、せっかくの体験活動もテーマ決めやその後の学習活動に生かされなかったと考えられる。したがって課題をつかむための体験は、事前学習をした上で、生徒がじっくりと体験できるような活動が必要である。 |

| | |
|-----|--|
| 事例2 | 地球環境について調べた生徒C。資料をまとめて原稿を書いた後、自分たちにできることは何かを考え、「そのためにはまず地球の環境と向き合うことから始めないといけない」とまとめている。生徒Cのまとめ方は、心がけの大切さの認識で終わってしまい自分が取り組むことのできる身近で具体的な課題になっていないことがうかがえた。 |
| 考察2 | その要因としては、テーマが抽象的で、自分の身の回りの課題から離れてしまっていることが考えられる。したがって、課題は自分自身が実際に体験したことからつかんだ身近な課題で、そこから発展していくような具体的な課題を設定することが大切である。 |
| 事例3 | ゴミ処理の費用が一人あたり30万円かかると調べた生徒D。自分たちにできることは「ゴミを減らすために、使えるものは最後まで使い切るようにする」とまとめているが、消しゴムを切っただけで遊んでいる。生徒Dの行動から、自分で調べたことが実際の行動に結びついていないことがうかがえた。 |
| 考察3 | その要因としては、書物などの専門的な資料からだけの調べ学習では、調べてまとめることだけで終わり、そのことが自分の生き方につながらないことが考えられる。したがって、調べ学習をする際にも、書物などから調べるだけでなく直接取材したり地域で調査したり、自分たちで活動しながら追究できる課題を設定する必要がある。 |

図2 授業観察の事例と考察

これらのことから、総合的な学習の時間に、生徒が身近な生活にかかわった課題を設定し、自分の問題として深めていく学習活動を進めるためには、課題づくり(課題にふれ、課題をつかむ場)が大切であり、そのためには課題づくりの場面で、生徒がじっくりと体験できるような体験活動をいかに取り入れるかが重要であると考えた。

(2) 野外活動の分析

総合的な学習の時間の課題づくりの場における体験活動を充実させるためには、1学期に実施され、体験的な活動をプログラムの中に多く含んでいる野外活動との関連が図れるのではないかと考えた。

『中学校学習指導要領解説 - 特別活動編 -』の旅行・集団宿泊的行事のねらいは、仲間との人間的なふれあいを通して生涯の楽しい思い出を作ること、集団行動を通して社会生活上のルールや公衆道徳などについての望ましい体験を得ること、大自然の美しさに接したりすることによって、各教科における学習を拡充することができることの3点にまとめられる。この3点をもとに、広島市立A中学校第1学年で1学期に実施した似島での野外活動の活動状況を、前述と同じ1年B組36名の生徒の感想文から次のように分析した(図3)。

| | |
|----------------|-------------------|
| 楽しい思い出.....29人 | 体験活動の楽しさ.....26人 |
| 人間的なふれあい...18人 | 信頼関係・協力の大切さ...15人 |
| 学習の拡充.....5人 | 自然の美しさ.....3人 |

感想文に次の言葉に関する内容を書いている生徒の人数(36人中)

図3 野外活動における生徒の感想文の分析

感想文の分析から、生徒は炊飯活動やキャンプファイヤーなどの様々な体験活動に意欲的に参加する中で、仲間とのふれあいを通して楽しい思い出を作ったことがうかがえた。また、教師の聞き取りから、自然の家の職員の言葉として、生徒はきまりを守ってよく活動したという評価があった。これらのことから、ねらいの と についてはおおむね達成されていることがうかがえた。一方、自然の美しさに接したり各教科の学習を拡充したりすることについては、教師側にもそれを十分に意識した取り組みが少なかったためか、ねらいの の達成は不十分であることがうかがえた。

これらのことから、野外活動において、生徒はきまりを守りながら意欲的に体験活動に取り組むことはできたが、より一層野外活動を充実させるためには、活動の中で自然に目を向けることや各教科等の学習を拡充することができるように、自然や環境等についての課題意識をもたせるような事前の取り組みが必要であると考えた。

(3) 関連の有効性

以上のことから、総合的な学習の時間の課題づくりの場として、野外活動の体験活動を生かすことにより、生徒はじっくりと体験できる活動を通して、より身近で具体的な課題をつかむことができる。また、総合的な学習の時間において自然や環境についての学習をすることにより、野外活動に課題意識をもって臨むことができる。したがって、野外活動と総合的な学習の時間を充実させるためには、両者を関連させたカリキュラムをつくるのが有効であると考えた。

2 特別活動と総合的な学習の時間を関連させる際の視点と方法

特別活動と総合的な学習の時間の関連について、『中学校学習指導要領解説 - 特別活動編 -』によると、特別活動は「総合的な学習の時間の学習内容や学習活動と関連する部分が少なくない。」「実際の指導に当たっては(中略)相互補完的で、相互還流的な関係の在り方が探求されてよい。」とある。そこで、両者の相互補完的で相互還流的な関係の在り方について整理し、次のように三つのタイプに分類した。

(1) 関連のタイプ

ア タイプ a ...学習方法に関する関連

特別活動の特質は、望ましい集団活動を進めることであり、そのことが特別活動の目標を達成するための方法原理でもある。その特別活動の集団活動を通して身に付ける、班や学級での話し合いの仕方や計画の立て方、自治的な活動の進め方、会の運営の仕方などの学習方法が、総合的な学習の時間のグループでの学習の進め方や成果の発表に生かされる。

また、総合的な学習の時間の課題追究を通して身に付ける、仲間とかかわりながら取り組む学習の進め方やまとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学習方法が、特別活動の集団活動に生かされる(図4)。

これらは相互に補完し合うことにより、それぞれの学習方法をより効果的に身に付けることができる。



図4 タイプ a 学習方法に関する関連

イ タイプ b ...学習内容に関する関連

特別活動における体験活動の中で見付けた課題を、総合的な学習の時間の課題づくりの場に生かすことにより、総合的な学習の時間の課題を生徒にとって身近なものにすることができ、追究活動を発展させ深めさせることができる。この、特別活動から総合的な学習の時間への発展型をタイプ b-1とする。

また、総合的な学習の時間の学習活動で得た関心や課題意識を、特別活動の体験活動を通してさらに実践的な課題として深め広げるとともに、特別活動も充実させ豊かにする場合が考えられる。この、総合的な学習の時間から特別活動への発展型をタイプ b-2とする(図5)。

これらは相互に補完し合うことにより、それぞれの内容をより深め、追究することができる。

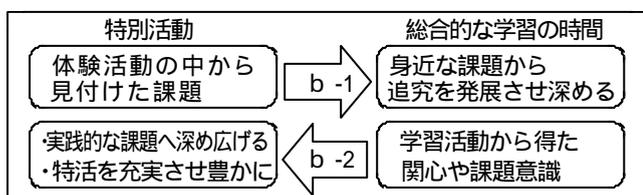


図5 タイプ b 学習内容に関する関連

ウ タイプ c ...育てたい能力や態度に関する関連

特別活動の目標として、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度の育成や自己を生かす能力を養うことがあげられる。この特別活動で育てたい能力や態度を、自主的、実践的な活動を通して身に付けさせることにより、総合的な学習の時間のねらいである主体的に問題を解決する能力や、主体的、創造的な態度、自己の生き方について考える力を一層育てることができる。

また、この総合的な学習の時間で育てたい能力や態度を、主体的な学習活動を通して身に付けさせることにより、特別活動で育てたい自主的、実践的な態度や自己を生かす能力を一層育てることができる(図6)。

これは、タイプ a やタイプ b の関連を基盤に、それぞれの活動を通して相互に補完し合うことにより、育てたい能力や態度が生徒の内面で一層高まり合うことを目指した関連の在り方である。

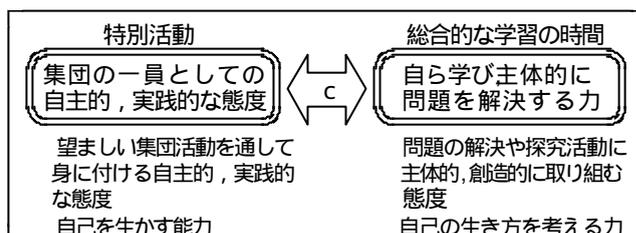


図6 タイプ c 育てたい能力や態度に関する関連

(2) 関連させる際の視点

特別活動と総合的な学習の時間の相互補完的で相互還流的な関係の在り方は、このような三つのタイプがそれぞれ関連し合うことによって、より効果的な関連が図られると考える。従って、両者の関連を図る際には、単に学習内容のみの関連を考えるのではなく、ある程度の長期的な取り組みの中で、学習方法に関することや、育てたい能力や態度に関することも相互に補完し合い、相互に還流することを視野に入れた総合的な学習の時間のカリキュラムをつくる必要があると考える。

(3) 関連の構想図と具体的な方法例

以上のことをもとに、特別活動と関連を図った総合的な学習の時間のカリキュラムの構想図を次に示す(図7)。

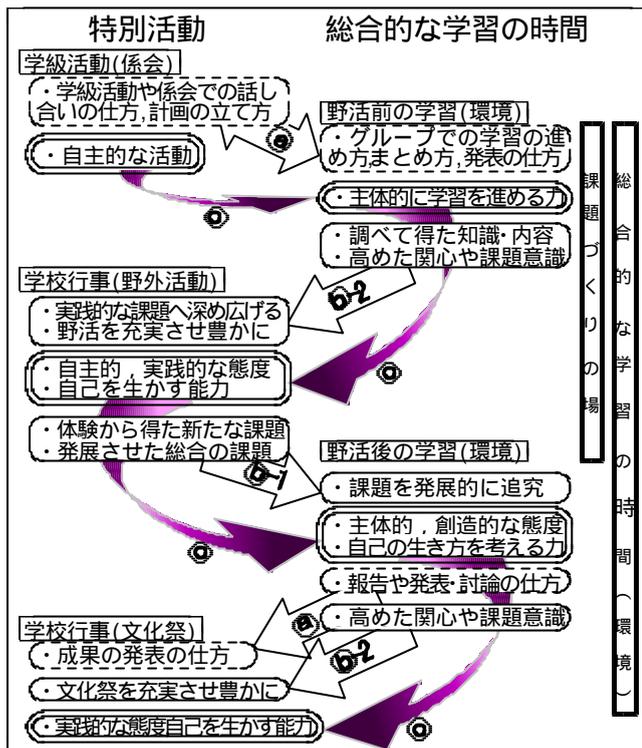


図7 関連の構想図

ア 学習方法に関する関連(タイプ a)

野外活動に向けての学級活動や係活動の中で、好ましい人間関係を築き、集団活動が活発に行われるように、話し合いや協力して活動する場面を多く設けるようにする。例えば係活動の際にも、意見を出し合い、互いの考えを理解しながら計画を立てさせるようにすることによって、特別活動としての係活動を充実させると同時に、総合的な学習の時間の学習を話し合いによって深めることにつながる。

イ 学習内容に関する関連(タイプ b)

野外活動の班編成において、各班の中を生活係、レク係、食事係の三つの係に分担し、同時にそれぞれが総合的な学習の時間の三つのテーマを受け持つこととする(表1)。

表1 各系の活動内容

| 係 | 特別活動 | 総合的な学習の時間 |
|----|----------------------------------|---|
| 生活 | 生活のきまり 持参物 生活集合点呼 係部屋割り | 文明と環境について考える。 ・自然の家の生活や今の生活の学習 ・火起こし体験や文明から離れる活動 電気がガスのない生活から、今の生活環境を考える。 |
| レク | 登山計画 ファイヤー計画 学年レク 係自然散策 | 自然と環境について考える。 ・似島の自然、エネルギー等の学習 ・クラフト、自然に親しむ活動 自然に親しむ活動から、自然環境について考える。 |
| 食事 | 炊飯計画 食堂の配膳 お茶の世話 係美化 | 食と環境について考える。 ・野外炊飯、ゴミ処理などの学習 ・廃油石鹸など環境にやさしい活動 環境にやさしい炊飯活動の体験から食や環境について考える。 |

この分担により野外活動の係と総合的な学習の時間のテーマ別のグループが同じになり、生徒は係の仕事と調べ学習の内容とを関連させながら、継続して課題に取り組むことができる。

そして、野外活動の事前の総合的な学習の時間の

中で、例えば環境にやさしい炊飯活動についての学習に取り組むことが、野外活動での活動を環境に関する課題意識をもった取り組みとすることができ、野外活動を充実させることにつながる。

また、野外活動で環境にやさしい炊飯活動を実践することにより、残飯やゴミ処理などの環境に関する課題をさらに深めることができ、こうした体験を通して総合的な学習の時間における新たな課題をつかむことになる。

この一連の学習活動の全体が総合的な学習の時間の課題づくりの場となり、生徒は課題をより身近で実践的な体験からつかむことができ、総合的な学習の時間を充実させることにつながる。

ウ 育てたい能力や態度に関する関連(タイプ c)

野外活動で、例えば、どのようにすれば環境にやさしい炊飯活動を進めることができるかを考えながら実践する中で、ゴミを出さない工夫や水を汚さない工夫などを、仲間と協力し、試行錯誤しながら実践することにより、自主的な態度や、集団の中で自己を生かす能力を育てることができる。そして、その能力や態度は総合的な学習の時間で自分の生き方に結びつけながら主体的に課題を追究することを通して、一層伸ばすことにつながる。

3 特別活動と関連を図った総合的な学習の時間のカリキュラム

以上のことをもとに、特別活動と関連させた総合的な学習の時間の具体的なカリキュラムの試案を次ページのように考えた(図8)。

この試案では、野外活動前後の学習の中に、「ふれる・つかむ・しらべる・まとめる・つなぐ」の活動を仕組み、この活動全体を通して生徒が総合的な学習の時間の課題づくりをし、その後の総合的な学習の時間にさらに課題を追究するように計画している。

このように総合的な学習の時間のカリキュラムを二重構造にすることにより、野外活動前後の一連の活動が、単に野外活動に関する学習として終わるのではなく、その後続く総合的な学習の時間の課題づくりの場として位置付くことになり、特別活動を総合的な学習の時間と関連させる際の方法の一つと考える。

